

1 教科名 (家庭科)

2 単元名 (補修の基礎縫いを活用したタブレットケース製作)

3 タブレットの使用方法 (どれかに○をつける)

教員 1 台の使用

グループ 1 台の使用

生徒 1 人 1 台の使用

4 単元計画

時数	内 容
第 1 時	衣服の補修の必要性
第 2 時	補修の基礎実習 (なみ縫い、返し縫い、小学校の学習のふり返り)
第 3 時	補修の基礎実習 (まつり縫い、ボタン付け)
第 4 時	ミシン縫いによる補修 (ミシンの使用について) 本時
第 5 時	基礎縫いを活用したタブレットケース製作 (5 ～ 6 時間)

5 本時

(1) 本時のねらい

- ・ミシンを安全に使い、ミシン縫いの準備ができる。
- ・ミシンを使って衣服の補修ができる。

(2) 本時の展開

学習の流れ	主な学習活動	指導のポイント (タブレット端末活用)
導入	・ 前回までの補修の基礎 (手縫い) を振り返る。	・ 実習時に記録した補修の基礎 (手縫い) について確認する。(タブレット)
展開	・ ミシンを活用した補修方法について考える。 ・ 2 人ペアで、ミシンを用意しお互いに確認しながら実習する。 ・ ミシンの使い方 (上糸、下糸の準備) について復習する。 ・ 準備ができたら、練習布を縫う。 ・ ミシンを片付ける。	・ 小学校での学習を振り返らせる。 ・ 2 人のペア学習にし、お互いに使い方を確認しながら実習を行うようにする。 ・ ミシンの使い方について、小学校の学習を振り返らせる。 ・ 生徒が行う様子を動画で撮り、全体の見本にする。(タブレット) ・ 下糸の準備については、手元を映し出す。(タブレット)
まとめ	・ 本時の振り返りをする。 ・ 次回のタブレットケース製作について、連絡をする。	・ ミシンの使い方について振り返る ・ 用具や材料など、持ち物の連絡をする。

タブレット端末活用のポイント（効果・生徒の反応）

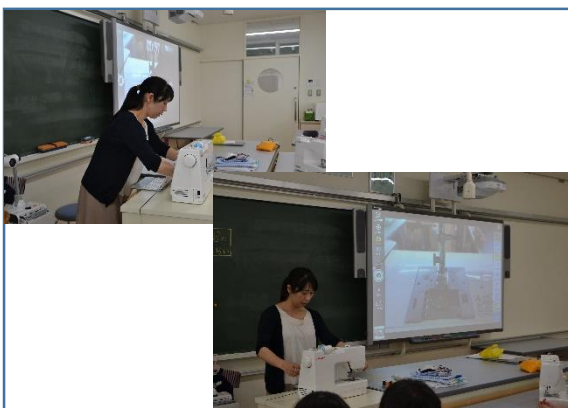


① 生徒の作業を映像で共有する。

＜活用した機能＞（ カメラ機能 ）

ミシンの使い方の基礎を、生徒に実践させ、その様子で大画面で全生徒と共有する。生徒は映像を真剣にみている。

また、撮影した映像は以後の授業での教材としても活用できる。

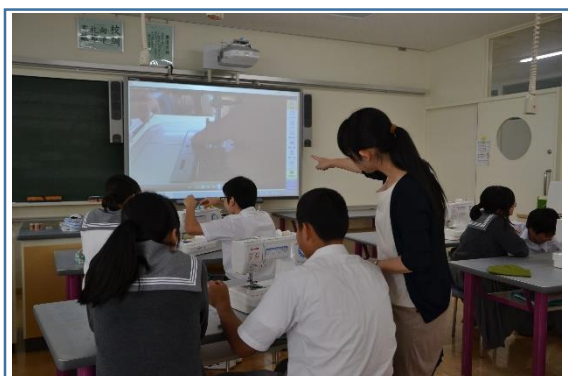


② 模範作業を共有する。

＜活用した機能＞（ カメラ機能 ）

教師の手元を大きく拡大して映像化し、生徒の理解を深め、技能を高める。

はじめは、生徒に撮影させたが、自分の方向から撮影することが、生徒には、わかりやすいと気づき、タブレットをキーボードと合体させて手元を撮影した。



③ 映像を見ながら作業する。

＜活用した機能＞（ 再生機能 ）

教師の模範作業をループ再生しながら、生徒に作業を行わせた。作業手順がわからなくなった場合は、教室前方の映像を見ながら作業を進められるため、作業がスムーズに行われる。

実践を振り返って（こんな場面でも活用できる）

教員の模範作業を映像化し、生徒が作業を行う際にループ再生したことは、生徒がわからない場面を見ながら作業を進めることができるため、大変有効な活用方法だった。この映像を生徒がみられるフォルダに入れ授業で活用していくと、さらに生徒たちは個に応じた作業ができるようになると思われる。また、生徒同士で、実技の様子を撮影しあうようにすれば、技能の評価活動にも生かせる。